

皆さまの健康を支えるデータヘルス計画を策定しました 予防と健康管理の取り組み通じ医療費適正化へ

増え続ける医療費による保険負担の増大を抑制することを目的として、本年度から全国で健康・医療戦略（日本再興戦略）を進めることになり、市町村の国民健康保険者は加入者の健康保持を推進する事業計画として、「データヘルス計画」の作成公表、事業実施、評価等に取り組むことを推進しています。当広域連合では、加入者の健康づくりや予防活動を促進する健診、医療、介護の各分野の各種住民健康データを活用して健康づくり、生活習慣病の予防活動を行うデータヘルス計画の策定を進めることになり、その取り組みを始めています。

一般に生活習慣病は自覚症状がない場合が多いといわれます。その予防には定期的に健診を受け、得られた健診データをもとに、かかりつけ医や町の保健師を通じて健康相談、指導を受け、健康を維持することが効果的です。データヘルス計画は、地域の皆さまの健康度を測ってデータベース化し、そのデータを皆さまの健康保持に役立てるのが目的です。その成果として皆さまが健康で暮らし、健康を保持増進していくことが医療費の適正化につながります。

特徴

効果的で効率的な保健事業の推進を目指して、健康、医療情報を活用して保健事業計画を策定し、住民の健康増進、病気予防を進めることを求められています。そのため健診、医療、介護情報（国保データベースシステム）を活用してPDCAサイクル（※1）に沿って保健事業を実施し、その成果を1年ごとに評価して見直します。国保データベースシステムによって経年変化、全国、全道、同規模保険者と比較しながら事業評価できるようになりました（※2）。

目標

最終目標は、長期入院、高額医療費が必要となる病気の重症化予防し、虚血性心疾患、脳血管疾患など病気の新規発症率を減らして地域医療費の伸びを抑えることです。

取り組み

大雪地区広域連合を構成する東川、美瑛、東神楽の3町は、地域住民の方の生活習慣病を予防するため、健診の未受診者対策や健康相談に取り組んできました。しかし依然として国民健康保険、後期高齢者医療制度の被保険者医療費、介護給付費用は毎年伸び続けています。その背景として虚血性心疾患、脳血管疾患、糖尿病性腎症といった「血管病」（※3）があることが明らかになってきました。そのため大雪地区広域連合では、健診、医療、介護データを分析し、今後必要とされる地域の健康課題を整理してきました。

期間

平成27年から3カ年とし、最終年度となる同29年度に目的、目標の達成状況を評価します。

- ※1 PDCAサイクルとは、「Plan(計画)→Do(実施)→Check(評価)→Action(改善)」を指す(図参照)。
- ※2 同規模保険者、人口ごとに分かれており、東川町と同規模保険者は全国244市町村(平成25年度)。
- ※3 血管病…血管壁や血管内皮(血管の細胞)の障害を血管病と総称しています。

